

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ファミリーサポートハウスわか木			
○保護者評価実施期間	R8年 7月 1日 ～ R8年 7月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	R8年 7月 1日 ～ R8年 7月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 7月 28日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児童の個性を理解し、特性等に寄り添った支援をしている。	新しい遊具やゲームを取り入れ、一人の時間も確保しながら交流の機会を設けている。	プログラムの立案を多角的な視点で検討していきたい。
2	保護者とこまめな情報共有をし、信頼関係の構築を図っている。	児童の顔色や、些細な言動にも気を配り、保護者・職員と共有している。	必要に応じて、家族の協力を得ながら、外出活動を行う。
3	わか木でのルールや、支援内容を明確にし説明している。	利用開始前に説明をし、丁寧に対応するよう意識している。	運営方法等に変更があった場合は速やかに家族へ報告し、理解を得られるよう取り組んでいく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子供たちと交流する機会を設けること。	放課後等デイサービス以外のサービスも提供しているため、十分な時間を確保できていない。	他の事業所と連携し、イベントを企画する。
2	家族支援プログラムの場を提供できていない。	放課後等デイサービス以外のサービスも提供しているため、十分な時間を確保できていない。また、研修機会の提供が難しい。	外部研修や勉強会を通してペアレント・トレーニングについて職員が学ぶ必要がある。
3	部屋の数が少なく、プログラムに合わせたスペースの確保が難しい。	古民家を改修した施設であるため、子供たち中心の部屋や成長に合わせた個室などのスペースに確保が難しい。	環境の整備・区画の見直しをし、子供たちの過ごしやすい環境を模索する。

公表保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ファミリーサポートハウスわか木										公表日		R8年7月31日		利用児童数		3年7月		R8年7月		回収数		2	
		チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応																
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。		1																					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。		1																					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。		1																					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。		1																					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。		1																					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。		1																					
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等ディサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。		1																					
	8	放課後等ディサービス計画には、放課後等ディサービスガイドラインの「放課後等ディサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。		1																					
	9	放課後等ディサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。		1																					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。		1																					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		1	1																				
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。		1																					
	13	「放課後等ディサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。		1																					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。		1																					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。		1																					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。		1																					
保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。		1																					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだいの向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		2																					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。		1																					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。		1																					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ファミリーサポートハウスわか木				公表日		R8 年 7 月 31 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4						
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2	2					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4						
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	1					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4						
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4						
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4						
	14	放課後等デイサービス計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4						
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	1					

40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4			
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備することとにも、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4			
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4			
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知することともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4			
47	業務継続計画（BCP）を策定することともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4			
48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4			
49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4			
50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4			